

## 高速 3 号渋谷線高架下火災に伴う調査状況等について（その 2）

**I. 構造状況**

別紙のとおり

**II. 上り線右車線について**

## 1. 調査状況

現地にて健全性を確認するため、3月21日の調査に加え、足場板の補強を行い作業の安全を確保したのち、以下の調査を3月22日未明に実施しました。

- ・火災による桁の受熱温度推定
- ・桁変形量確認
- ・ボルトのゆるみ調査
- ・荷重車載荷試験（20 t × 2 台）による応力測定（3月21日実施済）

## 2. 技術的調査結果及び判断

## (1) 技術的調査結果

右車線側の桁は高い受熱温度であったと推定される箇所があり、桁の一部に最大 20mm 程度の熱によるものと考えられる変形が確認されました。

一方、橋桁全体としての損傷は軽微で、20 t 荷重車 2 台による載荷試験の結果、計測値は解析値以下であり特段の異常値は見られませんでした。

## (2) 技術的判断

専門家とともに実施した現地確認及び各種調査の結果、正常な力の伝達を確認できました。

変形した桁の応急補強を行うことで、右車線側についても車両の通行に支障がないものと判断しました。

## 3. 通行止め解除について

変形した桁の応急補強対策を講じた上で、平成 26 年 3 月 22 日（土）22 時までに通行止め解除を行う予定です。

**III. 下り線について**

## 1. 調査状況

現地にて健全性を確認するため、足場板の補強を行い作業の安全を確保したのち、以下の調査を3月22日午前に実施しました。

- ・火災による桁の受熱温度推定
- ・桁変形量確認
- ・ボルトのゆるみ調査
- ・荷重車載荷試験（20 t × 2 台）による応力測定

## 2. 技術的調査結果及び判断

## (1) 技術的調査結果

桁全体に高い受熱温度であったと推定される箇所があり、桁の一部に最大 20mm 程度の熱によるものと考えられる変形が確認されました。

一方、橋桁全体としての損傷は軽微で、20 t 荷重車 2 台による載荷試験

の結果、計測値は解析値以下であり特段の異常値は見られませんでした。

(2) 技術的判断

専門家とともに実施した現地確認及び各種調査の結果、正常な力の伝達を確認できました。

変形した桁の応急補強を行うことで、下り線についても車両の通行に支障がないものと判断しました。

3. 通行止め解除について

現在、応急補強部材を手配中であり、今後、変形した桁の応急補強対策を講じた上で、平成 26 年 3 月 24 日（月）5 時までに通行止め解除を行う予定です。

## 構造概要



図-1 位置図

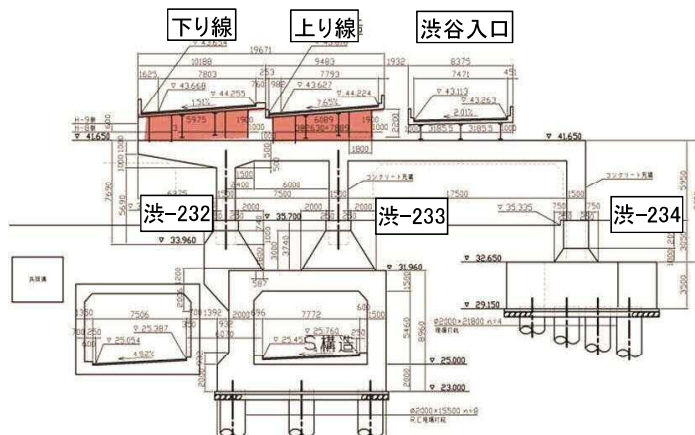


図-2 断面図

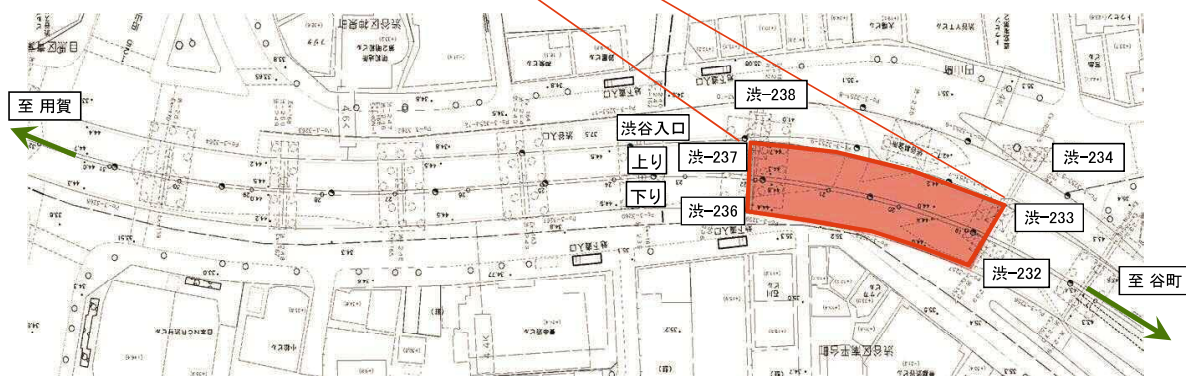


図-3 平面図

調査済範囲(3月22日現在)

### 洪-232～洪-236の構造概要

しゅん功 : 昭和46年9月  
 供用 : 昭和46年12月  
 上部工 : 単純鋼床版箱桁 上下分離 2連  
 下部工 : 鋼製橋脚  
 設計基準 : 鋼道路橋設計示方書 昭和39年6月  
 橋長 : 約66.3m  
 全幅員 : 約10m  
 桁幅 : 約2.0m  
 桁高 : 約2.2～2.8m  
 板厚 : G2桁被災箇所付近  
           デッキPL12mm、Web10mm、下FL10mm  
 付属物 : 排水管、ケーブルラック等

